

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	北海道財務局長
【提出日】	2022年11月8日
【四半期会計期間】	第25期第2四半期(自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)
【会社名】	株式会社メディカルシステムネットワーク
【英訳名】	MEDICAL SYSTEM NETWORK Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 田 尻 稲 雄
【本店の所在の場所】	札幌市中央区北十条西二十四丁目3番地
【電話番号】	011(612)1069(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員経理財務本部長 平 島 英 治
【最寄りの連絡場所】	札幌市中央区北十条西二十四丁目3番地
【電話番号】	011(612)1069(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員経理財務本部長 平 島 英 治
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第24期 第2四半期 連結累計期間	第25期 第2四半期 連結累計期間	第24期
会計期間	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上高 (百万円)	52,169	53,340	106,685
経常利益 (百万円)	2,235	1,242	4,313
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	1,431	502	2,394
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,451	523	2,386
純資産額 (百万円)	12,504	13,596	13,286
総資産額 (百万円)	62,433	64,124	62,941
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	47.46	16.64	79.35
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	20.0	21.2	21.1
営業活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	913	1,701	4,010
投資活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	△832	△902	△2,511
財務活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	△1,982	△2,226	△3,415
現金及び現金同等物の四半期 末(期末)残高 (百万円)	8,185	6,743	8,171

回次	第24期 第2四半期 連結会計期間	第25期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	28.09	13.62

- (注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 純資産額には、役員株式給付信託(BBT)の信託財産として、株式給付信託が保有する当社株式が「自己株式」として計上されております。また、1株当たり四半期(当期)純利益及び自己資本比率については、上記の役員株式給付信託(BBT)の当社株式を自己株式に含めて算出しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における業績は、地域薬局部門において2022年4月に実施された薬価・調剤報酬改定の影響により処方箋単価は下落したものの、新規出店やM&Aにより取得した店舗の業績が寄与したことや、医薬品ネットワーク部門において新規加盟件数が堅調に推移したこと等により、売上高は53,340百万円（前年同期比2.2%増）となりました。利益面につきましては、地域薬局部門において薬価・調剤報酬改定が実施されたことや対人業務強化に伴う労務費の増加等により、営業利益1,099百万円（同40.9%減）、経常利益1,242百万円（同44.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益502百万円（同64.9%減）となりました。なお、前年同期比では増収減益となりましたが、期初計画に対し、概ね計画通り推移いたしました。

セグメントの業績は次のとおりであります。なお、各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

①地域薬局ネットワーク事業

本事業に関しましては、医薬品サプライチェーン全体に対する価値の提供を推進することを目指し、地域薬局の運営、医薬品ネットワークによる薬局等の経営支援、医薬品の製造販売及びLINEを活用したかかりつけ薬局化支援を行っております。

地域薬局部門におきましては、薬価・調剤報酬改定の影響により処方箋単価は下落したものの、新規出店やM&Aにより取得した店舗の業績が寄与したこと等により、処方箋応需枚数は増加いたしました。また、当第2四半期連結累計期間において、モール型店舗3店舗を含む、地域薬局4店舗を新規出店いたしました。2022年9月30日現在の店舗数は、地域薬局427店舗、ケアプランセンター1店舗、コスメ・ドラッグストア9店舗となりました。

医薬品ネットワーク部門におきましては、調剤報酬改定の影響等により薬剤師が対人業務へ一層注力する中、薬局での業務効率化ニーズが高まり、新規加盟件数は堅調に推移いたしました。2022年9月30日現在の医薬品ネットワーク加盟件数は、当社グループ427件、一般加盟店7,746件の合計8,173件（前連結会計年度末比772件増）となりました。

医薬品製造販売部門におきましては、2022年9月30日現在、42成分85品目を販売しております。取引店舗数は、当社グループ薬局のほか、一般加盟店1,886店舗（前連結会計年度末比188店増）となりました。

デジタルシフト部門におきましては、導入・受注店舗数は順調に推移し、2022年9月30日現在の導入店舗数は、2,332店舗（前連結会計年度末比1,421店増）、受注店舗数は2,866店舗（同1,223店増）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は50,792百万円（前年同期比2.3%増）、営業利益2,384百万円（同17.4%減）となりました。

②賃貸・設備関連事業

本事業に関しましては、不動産賃貸収入が概ね堅調に推移したことや、建築業務における受注案件が増加したこと等により、売上高は1,673百万円（前年同期比8.9%増）となりました。利益面につきましては、営業強化のための増員等により労務費が増加したこと、また、サービス付き高齢者向け住宅「ウィステリア」や医師開業支援において開業を予定している医師向けに積極的な販売促進活動を行ったことによる広告宣伝費の増加等により、営業損失65百万円（前年同期は営業利益32百万円）となりました。

なお、サービス付き高齢者向け住宅の2022年9月30日現在の入居状況につきましては、「ウィステリア千里中央」は全82戸中57戸（入居率69.5%）、「ウィステリア南1条」は全116戸中80戸（入居率69.0%）、全5棟の入居率は80.6%となりました。引き続き、期末目標の入居率90%達成に向け、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら積極的な営業活動を行ってまいります。

③給食事業

本事業に関しましては、新型コロナウイルス感染症の影響による給食提供数の減少や、仕入価格上昇に伴う売上総利益率の低下等により、売上高は1,135百万円（前年同期比2.7%減）、営業損失33百万円（前年同期は営業利益1百万円）となりました。

④その他事業

本事業に関しましては、訪問看護事業を行っており、売上高は151百万円（前年同期比1.1%減）、営業損失10百万円（前年同期は営業損失12百万円）となりました。

財政状態

当第2四半期連結会計期間末における総資産は64,124百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,182百万円増加しました。

流動資産は18,721百万円となり、前連結会計年度末に比べ20百万円の増加となりました。固定資産は45,402百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,162百万円の増加となりました。主な要因は、のれんが減少したものの、有形固定資産のその他（純額）に含まれるリース資産（純額）が増加したことによるものであります。

負債の部は50,527百万円となり、前連結会計年度末に比べ872百万円の増加となりました。流動負債は20,966百万円となり、前連結会計年度末に比べ530百万円の増加となりました。主な要因は、短期借入金が増加したことによるものであります。固定負債は29,561百万円となり、前連結会計年度末に比べ342百万円の増加となりました。主な要因は、長期借入金が増加したものの、固定負債のその他に含まれるリース債務が増加したことによるものであります。

また、純資産の部においては、13,596百万円となり、前連結会計年度末に比べ309百万円の増加となりました。主な要因は、利益剰余金が増加したことによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末に比べ1,427百万円減の6,743百万円となりました。当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況については以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,701百万円の収入（前年同四半期は913百万円の収入）となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益1,165百万円及び減価償却費872百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、902百万円の支出（前年同四半期は832百万円の支出）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出670百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、2,226百万円の支出（前年同四半期は1,982百万円の支出）となりました。主な要因は、長期借入金の返済による支出2,392百万円によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	72,000,000
計	72,000,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2022年11月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	30,642,600	30,642,600	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数は100株で あります。
計	30,642,600	30,642,600	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	—	30,642,600	—	2,128	—	1,926

(5) 【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行 (株)(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	2,906,900	9.50
合同会社エスアンドエス	北海道札幌市中央区北十条西24丁目3	2,769,100	9.05
沖中恭幸	北海道札幌市白石区	2,506,000	8.19
QUINTET PRIVATE BANK (EUROPE) S. A. 107704 (常任代理人 (株)みずほ銀行決 済営業部)	43 BOULEVARD ROYAL L-295 5 LUXEMBOURG (東京都港区港南2丁目15-1)	2,430,600	7.94
秋野治郎	北海道小樽市	2,220,400	7.26
(株)日本カストディ銀行(信託 口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	1,007,900	3.29
EPSホールディングス(株)	東京都新宿区津久戸町1-8	950,000	3.10
メディカルシステムネットワー ク従業員持株会	北海道札幌市中央区北十条西24丁目3	746,800	2.44
田尻稲雄	北海道小樽市	730,200	2.38
中村剛	大阪府大阪市西区	481,800	1.57
計	—	16,749,700	54.77

(注) 1. 発行済株式(自己株式を除く。)総数に対する所有株式数の割合は小数点第三位以下を切捨てて表示しております。

2. 2022年8月22日付で、公共の縦覧に供されている大量保有報告書に係る変更報告書において、サマラン ユーシツ (SAMARANG UCITS)が2022年8月15日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社としては、2022年9月30日現在における実質所有状況の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
サマラン ユーシツ	11a Avenue Monterey L-2163 Luxembourg	2,430,600	7.93

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 63,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 30,574,000	305,740	—
単元未満株式	普通株式 5,600	—	—
発行済株式総数	30,642,600	—	—
総株主の議決権	—	305,740	—

- (注) 1. 「完全議決権株式(自己株式等)」欄は、すべて当社保有の自己株式であります。
2. 役員株式給付信託(BBT)の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式は、「完全議決権株式(自己株式等)」欄の自己保有株式に含まれておりません。
3. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式55株が含まれております。

② 【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) (株)メディカルシステム ネットワーク	札幌市中央区北十条西二十四 丁目3番地	63,000	—	63,000	0.20
計	—	63,000	—	63,000	0.20

- (注) 役員株式給付信託(BBT)の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式は、上記自己株式に含まれておりません。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,201	6,774
売掛金	2,891	3,328
債権売却未収入金	954	981
調剤報酬等購入債権	443	431
商品	4,765	5,220
原材料	14	16
仕掛品	1	3
貯蔵品	76	75
その他	1,355	1,901
貸倒引当金	△3	△10
流動資産合計	18,701	18,721
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	13,408	13,257
土地	8,847	8,901
建設仮勘定	202	151
その他（純額）	2,165	3,998
有形固定資産合計	24,624	26,307
無形固定資産		
のれん	12,254	11,689
ソフトウェア	401	496
その他	111	106
無形固定資産合計	12,767	12,292
投資その他の資産		
投資有価証券	155	156
差入保証金	3,052	3,067
繰延税金資産	2,894	2,865
その他	764	732
貸倒引当金	△19	△19
投資その他の資産合計	6,848	6,802
固定資産合計	44,239	45,402
資産合計	62,941	64,124

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	9,680	9,830
短期借入金	1,016	1,516
1年内返済予定の長期借入金	4,756	4,662
未払法人税等	617	603
賞与引当金	1,528	1,605
役員賞与引当金	38	8
その他	2,798	2,740
流動負債合計	20,435	20,966
固定負債		
長期借入金	22,891	20,592
役員退職慰労引当金	600	620
役員株式給付引当金	210	227
退職給付に係る負債	3,752	3,913
その他	1,763	4,207
固定負債合計	29,219	29,561
負債合計	49,654	50,527
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,128	2,128
資本剰余金	1,182	1,182
利益剰余金	10,393	10,681
自己株式	△326	△326
株主資本合計	13,377	13,665
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△7	△6
繰延ヘッジ損益	0	2
退職給付に係る調整累計額	△102	△92
その他の包括利益累計額合計	△108	△97
非支配株主持分	17	28
純資産合計	13,286	13,596
負債純資産合計	62,941	64,124

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	52,169	53,340
売上原価	30,307	31,024
売上総利益	21,861	22,315
販売費及び一般管理費	※ 19,999	※ 21,215
営業利益	1,862	1,099
営業外収益		
受取利息及び配当金	4	3
業務受託料	37	35
設備賃貸料	52	71
補助金収入	366	176
雑収入	59	38
営業外収益合計	520	325
営業外費用		
債権売却損	27	27
支払利息	95	138
雑損失	24	16
営業外費用合計	146	182
経常利益	2,235	1,242
特別利益		
固定資産売却益	0	7
投資有価証券売却益	112	—
特別利益合計	113	7
特別損失		
固定資産売却損	10	—
固定資産除却損	5	47
減損損失	90	18
店舗閉鎖損失	5	13
その他	0	6
特別損失合計	112	85
税金等調整前四半期純利益	2,236	1,165
法人税、住民税及び事業税	622	629
法人税等調整額	189	23
法人税等合計	812	653
四半期純利益	1,424	512
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△6	10
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,431	502

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	1,424	512
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17	0
繰延ヘッジ損益	1	1
退職給付に係る調整額	7	9
その他の包括利益合計	27	11
四半期包括利益	1,451	523
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,458	513
非支配株主に係る四半期包括利益	△6	10

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,236	1,165
減価償却費	827	872
減損損失	90	18
のれん償却額	564	565
賞与引当金の増減額(△は減少)	27	76
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△65	△30
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	7
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△2	—
役員株式給付引当金の増減額(△は減少)	16	16
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△217	20
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	198	175
受取利息及び受取配当金	△4	△3
支払利息	95	138
投資有価証券売却損益(△は益)	△112	—
固定資産売却損益(△は益)	9	△7
固定資産除却損	5	47
売上債権の増減額(△は増加)	△7	△437
債権売却未収入金の増減額(△は増加)	16	△26
調剤報酬等購入債権の増減額(△は増加)	24	11
棚卸資産の増減額(△は増加)	△531	△456
仕入債務の増減額(△は減少)	1	150
未払消費税等の増減額(△は減少)	45	△98
その他	△322	205
小計	2,893	2,410
利息及び配当金の受取額	4	2
利息の支払額	△94	△138
法人税等の支払額	△1,889	△572
営業活動によるキャッシュ・フロー	913	1,701

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△0	△0
有形固定資産の取得による支出	△927	△670
有形固定資産の売却による収入	19	22
無形固定資産の取得による支出	△112	△156
投資有価証券の売却による収入	379	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△209	—
事業譲渡による収入	11	—
貸付けによる支出	△1	△0
貸付金の回収による収入	6	3
差入保証金の差入による支出	△54	△49
差入保証金の回収による収入	18	30
その他	36	△81
投資活動によるキャッシュ・フロー	△832	△902
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	498	500
長期借入金の返済による支出	△2,195	△2,392
リース債務の返済による支出	△134	△120
配当金の支払額	△152	△213
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,982	△2,226
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△1,902	△1,427
現金及び現金同等物の期首残高	10,088	8,171
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 8,185	※ 6,743

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	
(1) 連結の範囲の重要な変更	該当事項はありません。
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更	該当事項はありません。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	
(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)	
当社は、当社の取締役（非業務執行取締役及び社外取締役は除く）に対して、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として「役員株式給付信託（BBT）」（以下「本制度」という。）を導入しております。	
① 取引の概要	
本制度はあらかじめ定めた役員株式給付規程に基づき、取締役が受益者要件を満たした場合に、当社株式を給付する仕組みであります。 当社グループは、取締役に対しポイントを付与し、退任時に受益者要件を満たした取締役に対し、付与されたポイントに相当する当社株式を給付しております。取締役に対し給付する株式については、あらかじめ当社グループが信託設定した金銭により信託銀行が将来給付分も含めて株式市場から取得し、信託財産として分別管理しております。	
② 「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第30号 2015年3月26日）に準じて、総額法を適用しております。	
規程に基づき取締役に付与したポイント数を基礎として、費用及びこれに対応する引当金を計上しております。	
③ 信託が保有する当社株式	
信託が保有する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は前連結会計年度末295百万円、401,000株、当第2四半期連結会計期間末295百万円、401,000株であります。	
(新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う会計上の見積り)	
前連結会計年度の有価証券報告書の（重要な会計上の見積り）に記載した新型コロナウイルス感染症の影響については、当連結会計年度以降も影響が継続するという仮定に重要な変更はありません。	

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
給料手当	7,669百万円	8,037百万円
賞与引当金繰入額	1,516百万円	1,596百万円
退職給付費用	280百万円	303百万円
役員退職慰労引当金繰入額	20百万円	20百万円
役員賞与引当金繰入額	18百万円	8百万円
役員株式給付引当金繰入額	16百万円	16百万円
租税公課	3,014百万円	3,092百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
現金及び預金	8,215百万円	6,774百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△30百万円	△30百万円
現金及び現金同等物	8,185百万円	6,743百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月24日 定時株主総会	普通株式	152	5.00	2021年3月31日	2021年6月25日	利益剰余金

(注) 2021年6月24日開催の定時株主総会決議に基づく配当金の総額には、役員株式給付信託（ＢＢＴ）の信託財産として株式会社日本カストディ銀行（信託Ｅ口）が保有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年11月5日 取締役会	普通株式	152	5.00	2021年9月30日	2021年12月13日	利益剰余金

(注) 2021年11月5日開催の取締役会決議に基づく配当金の総額には、役員株式給付信託（ＢＢＴ）の信託財産として株式会社日本カストディ銀行（信託Ｅ口）が保有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月22日 定時株主総会	普通株式	214	7.00	2022年3月31日	2022年6月23日	利益剰余金

(注) 2022年6月22日開催の定時株主総会決議に基づく配当金の総額には、役員株式給付信託（ＢＢＴ）の信託財産として株式会社日本カストディ銀行（信託Ｅ口）が保有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月4日 取締役会	普通株式	183	6.00	2022年9月30日	2022年12月12日	利益剰余金

(注) 2022年11月4日開催の取締役会決議に基づく配当金の総額には、役員株式給付信託（ＢＢＴ）の信託財産として株式会社日本カストディ銀行（信託Ｅ口）が保有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	地域薬局 ネットワーク 事業	賃貸・設備 関連事業	給食 事業	その他 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	49,663	1,186	1,166	152	52,169	—	52,169
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	350	—	—	350	△350	—
計	49,663	1,536	1,166	152	52,519	△350	52,169
セグメント利益 又は損失(△)	2,885	32	1	△12	2,906	△1,043	1,862

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,043百万円には、セグメント間取引消去117百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,161百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社の一般経費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	地域薬局 ネットワーク 事業	賃貸・設備 関連事業	給食 事業	その他 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	50,785	1,268	1,134	151	53,340	—	53,340
セグメント間の内部 売上高又は振替高	7	404	0	—	412	△412	—
計	50,792	1,673	1,135	151	53,752	△412	53,340
セグメント利益 又は損失(△)	2,384	△65	△33	△10	2,275	△1,175	1,099

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,175百万円には、セグメント間取引消去145百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,321百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社の一般経費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	合計
	地域薬局 ネットワーク 事業	賃貸・設備 関連事業	給食 事業	その他 事業	計		
北海道	16,215	290	—	77	16,584	—	16,584
東北	2,332	—	—	—	2,332	—	2,332
関東	10,838	—	—	74	10,913	—	10,913
中部	2,623	—	—	—	2,623	—	2,623
関西・中四国	11,133	—	—	—	11,133	—	11,133
九州	6,518	—	1,166	—	7,685	—	7,685
顧客との契約から生じる収益	49,663	290	1,166	152	51,273	—	51,273
その他の収益（注）	0	895	—	—	895	—	895
外部顧客への売上高	49,663	1,186	1,166	152	52,169	—	52,169

（注）その他の収益には、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号 2007年3月30日）に基づく賃貸収入が含まれております。

当第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	合計
	地域薬局 ネットワーク 事業	賃貸・設備 関連事業	給食 事業	その他 事業	計		
北海道	16,903	352	—	151	17,407	—	17,407
東北	2,476	—	—	—	2,476	—	2,476
関東	11,157	—	—	—	11,157	—	11,157
中部	2,607	—	—	—	2,607	—	2,607
関西・中四国	11,172	—	—	—	11,172	—	11,172
九州	6,441	—	1,134	—	7,576	—	7,576
顧客との契約から生じる収益	50,758	352	1,134	151	52,397	—	52,397
その他の収益（注）	26	915	—	—	942	—	942
外部顧客への売上高	50,785	1,268	1,134	151	53,340	—	53,340

（注）その他の収益には、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号 2007年3月30日）に基づく賃貸収入が含まれております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
1株当たり四半期純利益	47円46銭	16円64銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	1,431	502
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	1,431	502
普通株式の期中平均株式数(株)	30,163,381	30,178,545

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 株主資本において自己株式として計上されている役員株式給付信託(BBT)が保有する当社株式は、1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。1株当たり四半期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は、前第2四半期連結累計期間416,163株、当第2四半期連結累計期間401,000株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

2022年11月4日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (1) 中間配当による配当金の総額・・・・・・・・・・ 183百万円
- (2) 1株当たりの金額・・・・・・・・・・ 6円00銭
- (3) 支払請求権の効力発生日及び支払開始日・・・・・・ 2022年12月12日

(注) 2022年9月30日現在の株主名簿に記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月8日

株式会社メディカルシステムネットワーク

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

札幌事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 山野辺 純一

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 木村 彰夫

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社メディカルシステムネットワークの2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社メディカルシステムネットワーク及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。